

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：北海道南十勝の自然共生サイト・OECMと国立公園を対比しながら日本の自然観を観て感じ取れるエコツアーの多言語対応化
- ・実施主体：一般財団法人史春森林財団
- ・対象地域：北海道広尾町・大樹町
- ・対象とする良好な環境：自然共生サイト・国立公園景観・地域の農林漁業

地域の現状・課題

- ❑ 大樹町・広尾町では、農林漁担当課、教育委、観光協会、環境教育部門と信頼関係を構築
- ❑ 広域連携の観光協議会、DMO等複数存在。国立公園誕生で気運はあるが、体験型・研修型コンテンツが不足
- ❑ 自然共生サイト・OECM・国立公園化を活かす研修的ツアーを森を軸に造成したい
- ❑ 生物多様性に配慮した非営利徹底型の財団⇒地域に還元する森林経営

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- ❑ まちづくり、自然景観、農林漁連携の観光を、将来の人材育成と両立しながら事業化
- ❑ 10年後、森林作業現場で若い人が多言語AIを活用しながら作業体験や森の多様性を案内
- ❑ 史春の経営特性を活かし、自然共生経営を学ぶ研修ツアー（特に海外からの親日層に対して）
- ❑ 訪日外国人消費：50万円/人、地方宿泊4～5泊、旅行者数50人/年

実施項目（事業内での取組）

- ❑ 森林経営と生物多様性の関係：現場説明口上の多言語化、紙芝居・看板化
- ❑ VR・ドローン映像のWEB発信
- ❑ 畜・漁・木工等連携先カタログ化
- ❑ 専門家向け（特にIPSI）プロモーション

R7：ストーリー構築

R8：ツアー造成・プロモーション

R9：ツアー販売

（事業期間終了後）

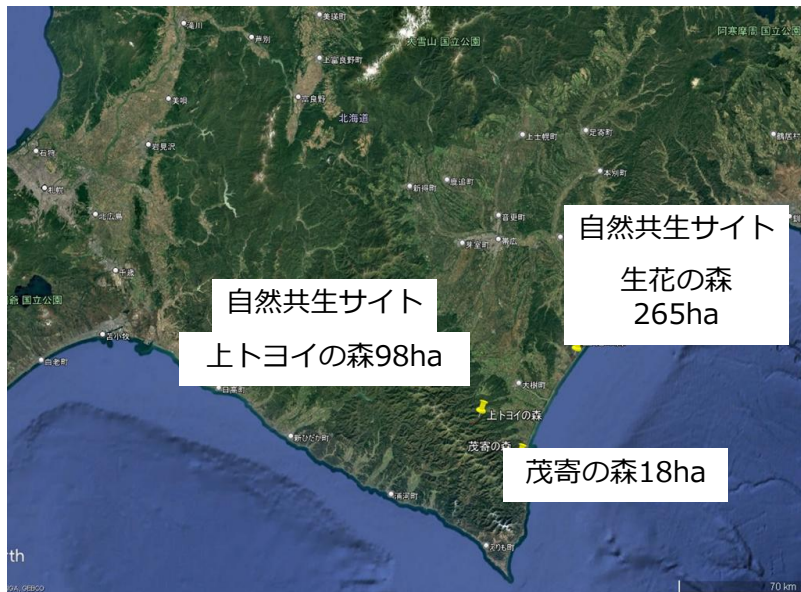
実施項目（事業内での取組）

- ❑ 地元人材への展開・実行体制構築
- ❑ 国内外プロモーション
- ❑ モニターツアー
- ❑ ツアー商品販売試行

実施項目（自走化）

- ❑ 日本の北方林ツーリズム組織化
- ❑ IPSI経由専門家向けツアー
- ❑ 一般向け日本の北方林ツアー
- ❑ 日本らしい“自然共生経営”企業研修

対象となる良好な環境の概要



- 縄文時代からの住居痕跡、18世紀まではミズナラ・カシワの原生林
- 19世紀農地開拓・燃材採取で伐採・二次林化
- 20世紀に一部人工林化、林業生産の計画的継続による生物多様性の向上
- 自然共生サイト・OECM認定、日高山脈の国立公園化
- 森林の経営特性：非営利徹底型財団法人で生物多様性と地域に再投資する使命
- 60年サイクルの永続的木材生産：保持林業（Retention Forestry）と景観施業
- 農林漁業が生物多様性を支える日本的OECM＝SATOYAMAイニシアティブ
- 日本最大の国立公園区域との役割分担、連続性担保、景観価値
- 近郊二次林における混交林化テーマの子ども向けプログラムで人材育成
- 有機的放牧の畜産体験、昆布漁・昆布干し体験のエコツアー先行者との連携
- えりも岬とんがりロード周遊コンテンツとの連携

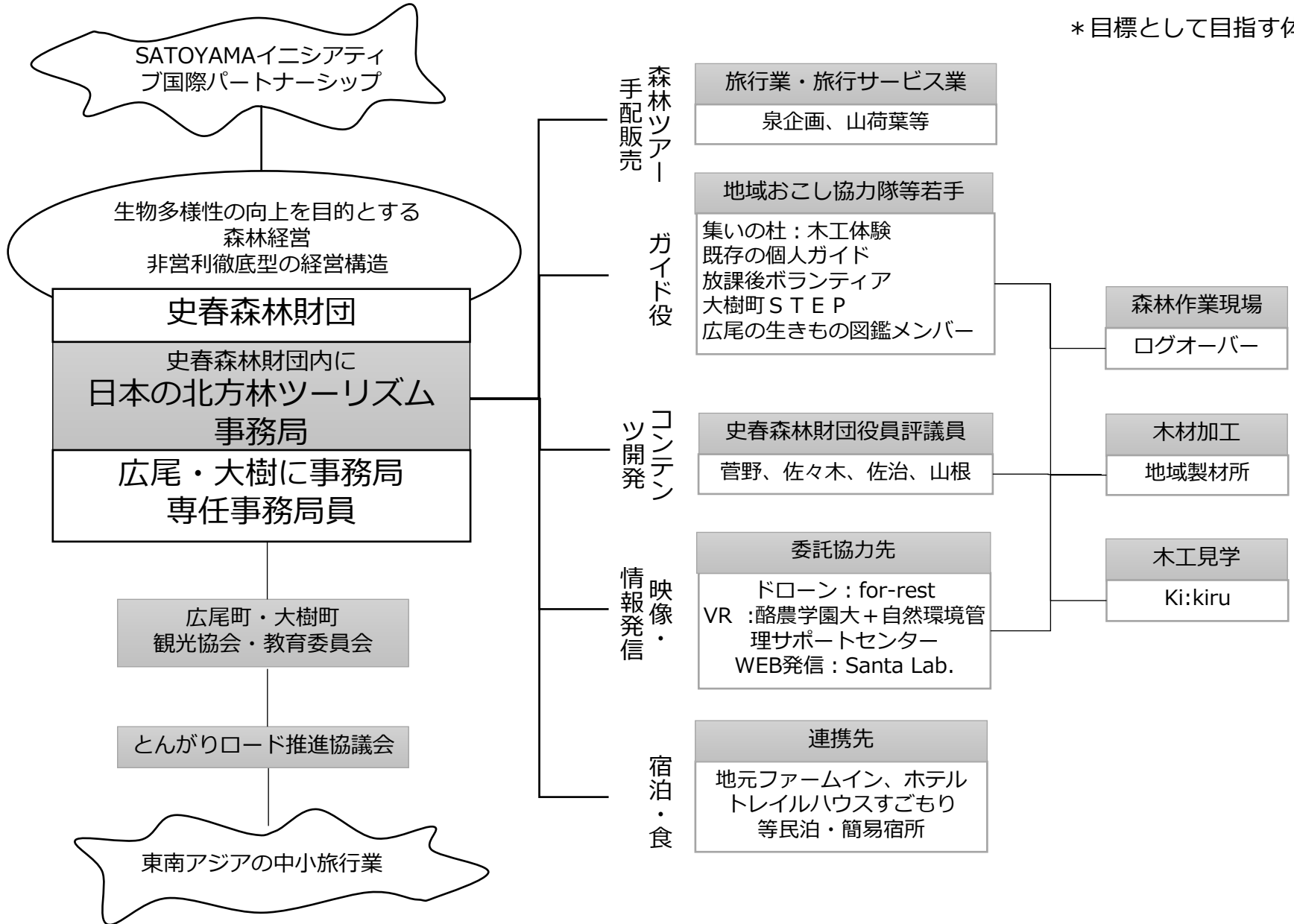
良好な環境に係るストーリー

- 日本的自然観に基づく天然生二次林・人工林の“自然共生経営”⇒生物多様性を担保している
- 畜林漁の営みが景観・生物多様性と人の暮らしを支える実像を見える化＝サステイナブルな地域経営・日本らしいOECM
- 背景にある恵まれた気候条件が育む日本的“自然共生経営”→次代経営へのヒントを探る研修ツアー



実施体制（図示）

* 目標として目指す体制



【R7年度取組】

口上の多言語化、紙芝居・看板化

- 森林作業の現場・経営の現場で伝えるべき口上定型文を挿絵や写真とともに英語化
- さらに数か国語に翻訳
- note上での紙芝居化、訪問者への自己紹介案内に活用予定
- 森林現場の案内看板化

VR・ドローン映像のWEB発信

- 森林内の360°カメラ映像及び上空からのドローン映像を地図情報にリンクさせてWEB上で閲覧可能に
- 事前の情報把握、別の季節の様子の把握を可能に

連携先カタログ

- 十勝地域に既存の自然ガイドほか、農・畜・漁・木工・写真家・自然観察・放課後ボランティア等の連携可能な人間関係（人のカタログ化）

プロモーション

- SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ事務局（IPSI）を通じて国際的専門家ネットワークを構築
- 海外からの日本式経営、日本型自然共生の研修需要を掘り起こし
- 12月台湾IPSI訪問：中興大学においてエコツアーの内容をPR

特に工夫した点・取組成果

- noteによる共有
- VoiceTraの活用
- 作業現場からの発信
- 森林専門イラストレーターの採用
- 地元地域おこし協力隊との連携

特に工夫した点・取組成果

- 子ども向けプログラムと連動
- 地元カメラマン・WEB制作者の採用



特に工夫した点・取組成果

- 地域おこし協力隊等地元若手人材をパートタイム的に事務局化
- とんがりロード推進協議会（浦河観光協会）との連携で台湾・韓国へのプロモーション

特に工夫した点・取組成果

- 1月大手研修企画会社に需要調査
- 国内IPSIメンバー向けPRプレゼンテーション

R7年度のゴール

- 現場の説明コンテンツの多言語化、連携先を含めた全体のストーリー化、WEB発信
- IPSIプロモーションの第一段階発信

課題

- 広尾町・大樹町、観光協会等の地元を巻き込んだ推進体制・運営組織の構築
- モニターツアーの実施
- ツアー商品の販売試行



取組内容詳細

1. 口上の多言語化 (note上)

生物多様性と木材生産は両立する (英語) | TOMOYUKI SUGANO | note

0-4 皆伐林縁のマント群落を育成する
At the edge of a clear-cut area, at the edge of the surrounding forest, we grow a mantle of vegetation. T...

1-1 人間活動と草原植生
Humans dug them up, cut them down, and used them as fuel to keep warm. And creating grassland...

1-2 日本の生物多様性
So the reality of biodiversity in Japan is this. There are many species and populations of plants and animals...

1-3 大陸や熱帯地域との違い
On the other hand, in continental climate and tropical climates, human production activities destroy forests...

1-4 日本列島の気象
There is a warm sea on the windward side of the westerlies, and it has a temperate climate. Cold air an...

1-5 日本列島の生物多様性
In the Japanese archipelago like this, if there is no human activity anymore, it will become simple...

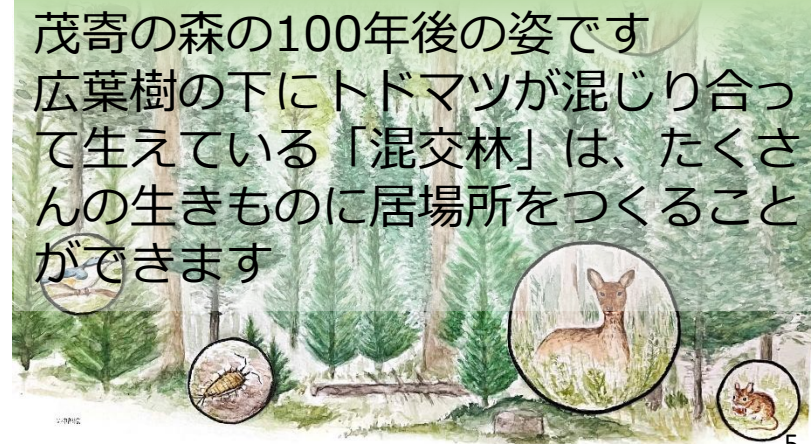
1-6 高木林を伐採すると
If you open the upper layer of the forest, important grasses and shrubs for graminivorous creatures will...

1-2. 紙芝居化

生花の森の60年後の姿です
天然生広葉樹の森とトドマツの人工林がいろいろな大きさと入り混じっています



茂寄の森の100年後の姿です
広葉樹の下にトドマツが混じり合っ
て生えている「混交林」は、たくさ
んの生きものに居場所をつくるこ
とができます



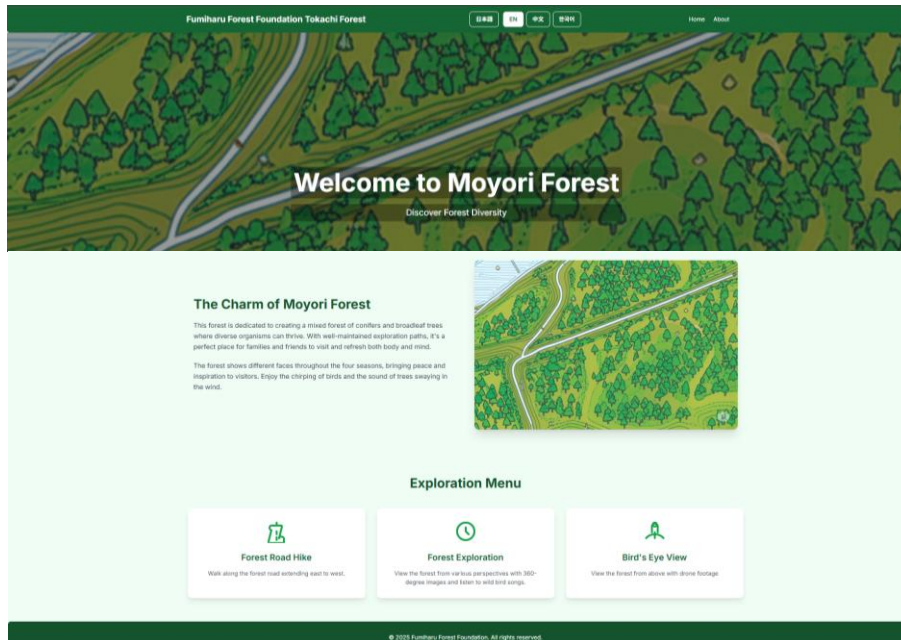
取組内容詳細

I-3. 口上の多言語化（8カ国語リスト例）

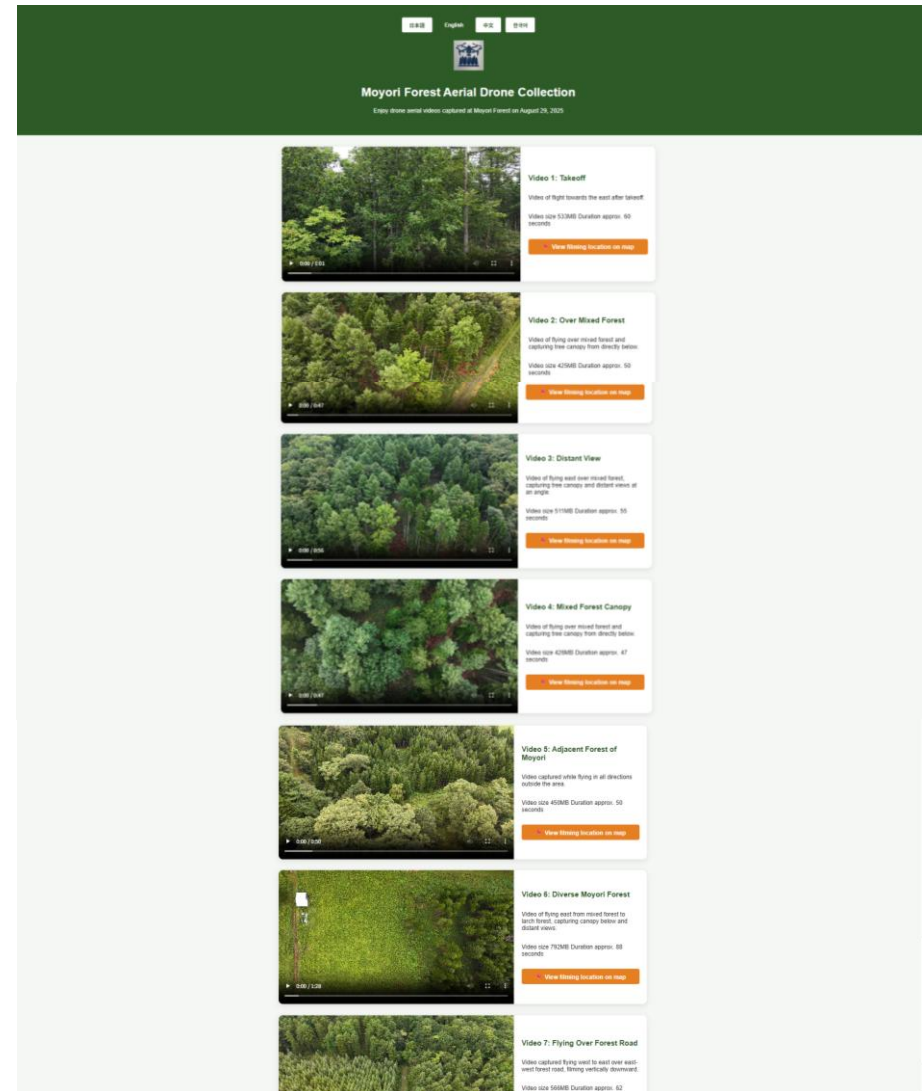
NO	日本語	インドネシア語
J 0-1	老木枯木の保残 年老いた木や枯れて立っている木があった場合、これらの木は、木の洞や巣の穴を利用する動物や鳥のすみかとして伐採せずに残しておきます。	Pelestarian Pohon Tua dan Pohon Kering Apabila ada pohon tua atau pohon yang sudah kering, tetapi masih berdiri, pohon-pohon tersebut tidak ditebang dan dibiarkan ada karena pohon itu akan menjadi tempat tinggal bagi hewan atau burung yang memanfaatkan lubang pada batang atau sarang.
NO	日本語	スペイン語
J 0-2	空洞木の保残 幹が空洞になって立っている木があった場合も、木の洞や巣の穴を利用する動物や鳥のすみかとして、伐採せずに残しておきます。	Conservación de árboles huecos Cuando hay árboles con el tronco hueco que aún permanecen en pie, también se dejan sin talar, ya que sirven de refugio para animales y aves que utilizan las cavidades o huecos del tronco como morada.
NO	日本語	タイ語
J 0-3	古い風倒木を残す 風で倒れた古い木があった場合も、地上の昆虫やコケの場所として、また種子を落として芽を出す木の生育場所として、あえて残します。	การคงไว้ซึ่งต้นไม้เก่าที่ล้มจากแรงลม หากมีต้นไม้เก่าที่ถูกพัดล้มจากแรงลม เราจะปล่อยให้มันอยู่ที่เดิมเพื่อเป็นที่อยู่อาศัยให้กับแมลงและมอสบนพื้นดิน รวมถึงเป็นที่ให้เมล็ดพันธุ์ที่จะงอกขึ้นใหม่
NO	日本語	タガログ語
J 0-4	皆伐林縁のマント群落を育成する 皆伐した区域のふち、つまり周囲の森林との境界では、我々はマントとなる植生を育てます これは周囲の残った森林内部の環境を急変させないことや、林縁ならではの生態系を確保するためです。	Paglinang ng mga Mantle Communities sa gilid ng mga Clear-Cut Forest Sa gilid ng clear-cut area, samakatuwid, sa gilid ng nakapalibot na kagubatan, tayo ay nagtatanim ng isang mantel ng mga halaman. Ito ay upang pigilan ang mga biglaang pagbabago sa kapaligiran sa loob ng nakapaligid na natitirang kagubatan at upang matiyak ang isang ecosystem na natatangi sa gilid ng kagubatan.
NO	日本語	中国語
J 1-5	日本列島の生物多様性 このような日本列島では、人間活動が存在しなくなったら、暗い森ばかりの単純植生となってしまいます。 そして生息できる生き物の種類も数も限定されてしまい、生物の多様性は低くなってしまいます。	日本列島の生物多样性 在日本列岛，如果没有人类活动，它将变成简单的植被，只有黑暗的森林。能栖息于此的生物种类和数量都是有限的，这意味着生命的多样性将变低。
NO	日本語	ドイツ語
NO	日本語	英語
NO	日本語	フランス語

2. VR・ドローン映像のWEB公開・英語化

360度VR動画ビューア



空撮コンテンツ



取組内容詳細

4. 森林専門イラストレーターの参画



ネイチャージャーナル手法

5. 地元地域おこし協力隊との連携



空き家活用二拠点移住
木工・林業人材
多言語対応

6. 子ども向けプログラムと連動



7. 地元カメラマン・WEB制作者の参画

史春森林財団WEBサイト：地元紙記者
カメラマン
地域おこしイベント企画会社
飲食店経営



取組内容詳細

8. “人のカタログ”化

地域	テーマ	対象者	連携可能性
北海道全般	ネイチャージャーナル 森林専門のイラスト 森林の生きもの 森林の土壌微生物	本田美穂子さん	R8 年度事業の中で史春森林財団の経営思想を反映した将来像をイラスト化いただく予定 その延長で、随時、エコツアー含め財団事業全般に森林の専門家としてアドバイスや協力をいただくことを検討
	自然共生サイト 世界最大の研究林 典型的な原生林	北海道大学雨龍研究林	R7 年度森林施業研究会合宿で視察の折、同じ自然共生サイトとしての一般客へのエコツアーで連携する可能性を合意 史春森林財団で企画して、雨龍研究林を案内するというオプションツアーを想定 史春森林財団の森だけでは語れないスケールの大きい（規模的にも、歴史的にも）典型的な“北方林”（なかでも原生林）の魅力をつター客に案内可能
	北海道随一のカラマツ人工林	鹿島建設株式会社	明治時代から森林育成に取組んできた鹿島の歴史と、その結果としての特に立派なカラマツ人工林の魅力をつター客に案内可能 社有林の“自然共生経営”を共にテーマ化してツアーの訴求素材として連携して育てていく可能性
十勝地域全般	十勝の農産物を食材に素敵にもてなすレストラン	かっこう料理店	ツアーの中で、十勝らしさを最も訴求できる“食”の拠点として昼食、夕食先として紹介・組み込みできる可能性
	森林作業ガイド	(株)やまのたね 代表河田和也 東出	実際に森林作業（造林部門）を業として請け負う兄妹 史春森林財団のエコツアーの中でガイド役を担いたいという希望 自然知識よりも現場作業の実体験に強み

9. 周辺資源とも連動できる旅行者向けの分かりやすいストーリー化

地元の人も知らない？十勝の自然の楽しさを体験しながら森へ誘うコンテンツの構成
（コアなコンテンツの前後に「お楽しみ」「体験」要素を取り入れるストーリー化）

山菜採りツアー（春から初夏）

歴舟川キャニオニング（川遊び・川下り体験）

専門家向け“コア”なツアーコンテンツ

見どころ 1：多様な樹種が織りなす豊かな生物を育む「北方林」

見どころ 2：森を守り育てる北の森の作業体験

見どころ 3：生物多様性保全と林業活動の両立への挑戦

見どころ 4：森の恵みを味わう、とっておきの食

キノコ採り（タモギタケ等）

ワカサギの穴釣り（生花苗沼・ホロカヤントー）

オオワシ、オジロワシ（広尾港等）冬季

秋アジ（遡上するサケ）

10. 企業の経営層クラスの研修ツアー

F総研の環境ビジネス部門への聴き取り

日本においては、サステナビリティ領域の森林がビジネスに繋がるには、あと10年近くは掛かってしまう。

森林を持つ方からは、たまに相談があるものの、需給ニーズからも対応が出来かねております。

勿論、海外の方が本企画に、どこまで興味を持たれるのかは不明ですが、海外からの視察者が我々とビジネスで繋がることは難しいと感じている。

需要について探索・PR

松本市柳澤林業への聴き取り

「世界の経営幹部はなぜ日本に感化されるのか」という本を出されました。

アインシュタインやスティーブジョブスなどがそうであったようにこの地球で平和的な暮らしを目指そうとする方は、自ずと日本にその答えを見つけに来られるのではないかと・・・。

取組内容詳細

8. 財団内の「プレ・エコツアー」実施



財団内のエコツアー企画訓練、能力向上、地元関係、企業の自然共生サイトとの関係強化

9. 北海道大学 雨龍研究林 (自然共生サイト) との連携模索

オプションツアーとしての企画可能性



10. えりも岬とんがりロード観光協議会との連携



既存コンテンツとの組合せ効果、着地拠点と案内ルートの複線化（帯広空港＋新千歳空港）（地元観光バスタクシー会社との連携）、台湾、韓国等へのプロモーション効果

- 11月20日 えりも岬とんがりロード観光協議会事務局（浦河観光協会）と会合
- 1月14～17日 えりも岬とんがりロード観光協議会として台湾旅行会社へのプレゼン、6月のモニターツアー受入れを決定

取組内容詳細

11. SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) を通じた国際プロモーション (台湾)

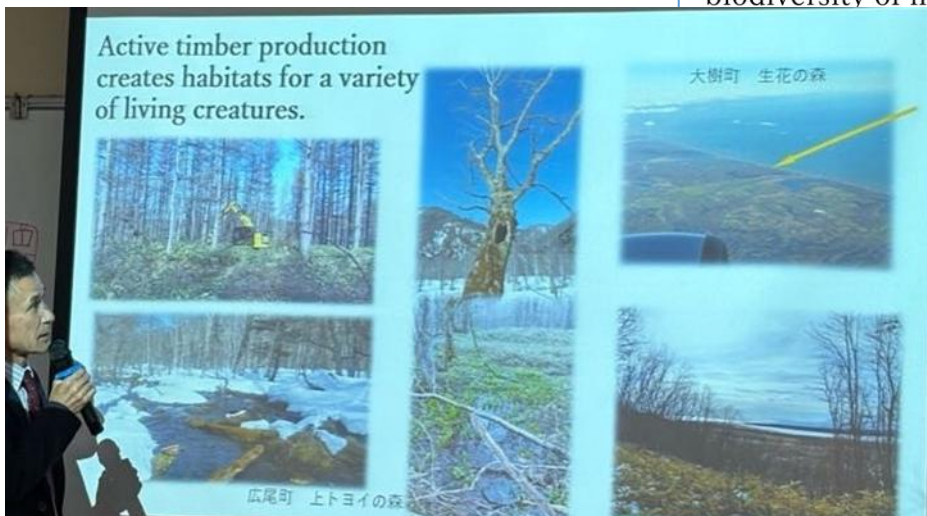
- 12月5日～8日台湾IPSIの招きにより台中市・苗栗県を訪問：里山オリンピックに参加、中興大学において企画中のエコツアーをプレゼンテーション
- [Promoting the Fumiharu Forest Foundation's eco-tour at a university in Taiwan](#)
- [台湾の大学で史春森林財団のエコツアーをPR](#)



日本列島の生物多様性

Biodiversity of the Japanese Archipelago

In the Japanese archipelago, if there is no human activity anymore, it will become simple vegetation with only dark forests. And the types and numbers of creatures that can live here are limited, which means that the biodiversity of life is low.



現場の森林施業から

From on-site forest management

高木林を伐採すると

Cutting Down Tall Forests



森の上層を開けると、草食性の生き物にとって重要な草や低木が林床に生えてきます。この植生は植物食の昆虫を養ったり、食虫性脊椎動物の多くにとって重要な生存基盤となります。

If you clear the forest, important grasses and low trees will grow on the forest floor. This vegetation provides sustenance for herbivorous insects, and for many herbivorous vertebrates.

12. JICA帯広との連携模索

課題別研修 「自然環境行政官向けのエコツーリズム」

多くの開発途上国において、観光は大事な外貨獲得の手段であり、地域住民の雇用機会創出・域経済活性化という点でも重視されています。一方でこうした効果を持続的にしていくために光資源となる自然環境への負荷を抑えることが必要です。このように、自然環境の保全と地域経済を両立させた「持続可能な観光開発」の重要性が高まっています。

JICA北海道では、途上国の自然環境保全に従事する行政官が、実体験を通じて道東地域の自然や伝統への理解を深めながら、環境面、経済面、社会面において持続的なエコツーリズムの計画立案、事業実施のノウハウを習得することを目指し、エコツーリズム研修を行っています。



JICA北海道PROFILEより

レベト 科学・技術・環境局 主任

このコースで最も興味深かった内容は、環境保全活動の管理において、地域コミュニティが政府と協力している事例です。私はこのコースで得た知識を、地元住民との調整やエコツーリズム開発のための計画や戦略に活かしていきたいと思えます。JICAが私たちに多くの知識、経験を与えてくれたことに感謝します。



バガリさん 保護局 外交・プロジェクト管理課 専門家

このコースに参加し、私は自分の知見を高め、エコツーリズム分野における日本の好事例に触れ、それをジョージアでの実務に活用するためのスキルを身につけることができました。講師と参加者のモチベーションが本当に高く、研修は遠隔で実施されましたが、自分と同じような仕事をしている様々な園の人たちと素晴らしいつながりを持つことができ、とてもよい経験となりました。

- 12月18日：JICA北海道（帯広）市民参加協力担当職員へ連携可能性を相談。コラボについて前向きな反応
- 研修事業を通じたコラボ案について議論を行った。
- 既にエコツーリズムテーマの課題別研修も行っている（釧路湿原）という情報を得た

13. 台湾旅行会社への提案

- 1月14～17日：浦河観光協会中川氏から、台湾の旅行会社へモニターツアーを提案（4泊5日の4日目の森林プログラムが史春森林財団の企画部分）

1日目

台湾桃園国際空港06:20 — 新千歳空港到着11:00
 12:00 新千歳出発
 14:30 浦河町着 乗馬、JRA 見学など
 18:00 うらかわ優駿ビレッジ AERU チェックイン
 19:00 夕食@ホテル

2日目 プランA

07:00 朝食
 08:00 出発
 08:30 親子岩 フォトストップ
 09:00 EMTB ツアーで様似の景勝地を巡る
 12:00 昼食@女郎花
 13:30 様似共栄牧場見学
 15:00 アポイ岳ビジターセンター見学

2日目 プランB

07:00 朝食
 07:30 出発
 08:00 アポイ岳登山 ガイド付き
 12:00 頂上でランチ（まんまの会の弁当）
 15:00 下山後 ビジターセンター見学
 16:00 ホテルアポイ山荘チェックイン
 18:00 夕食@ホテル
 21:00 星空観賞

3日目

07:00 朝食

4日目

07:00 朝食
 08:00 森林散策プログラム体験
 10:00 体験終了
 10:30 意見交換@広尾町役場
 12:00 昼食@広尾町
 13:00 広尾町出発
 17:00 札幌到着
 18:00 宿泊@札幌市内
 夜フリー

史春森林財団が企画中のエコツアー行程の一例

見どころ 1 : 多様な樹種が織りなす豊かな生物を育む「北方林」

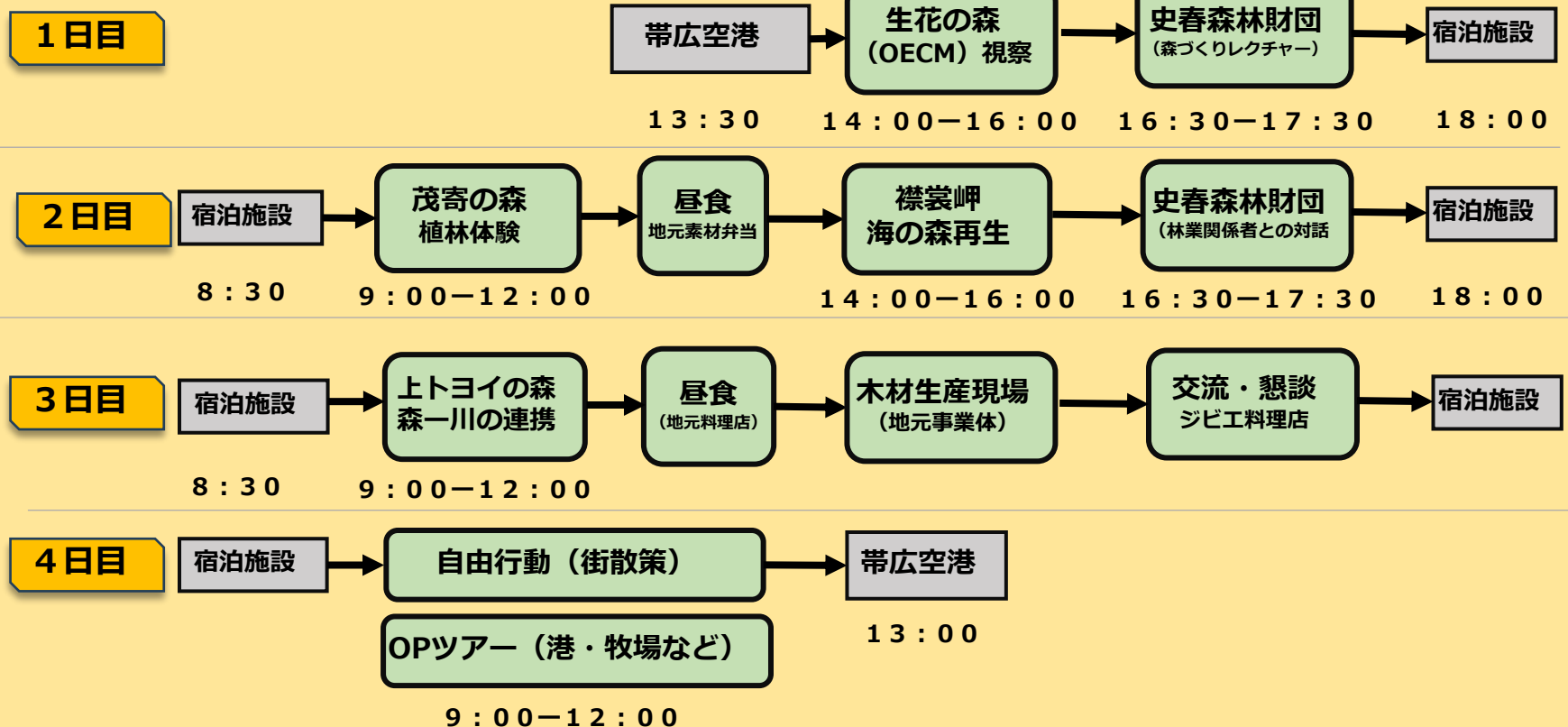
見どころ 2 : 森を守り育てる北の森の作業体験

見どころ 3 : 生物多様性保全と林業活動の両立への挑戦

見どころ 4 : 森の恵みを味わう、とっておきの食



モデルコース 森の再生／森の恵み／森—川—海の繋がり



本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み



保全の具体的内容・方法

- 60年サイクルの齢級平準化
 - 小面積モザイク状の伐採配置
 - 生物多様性を優先した保持林業
(連続性や多様性のための保残)
 - 国立公園の原生景観を楽しむための景観施業
- 積極的な木材生産



活用の具体的内容・方法

- 伐採収穫した木材の継続的販売収益と間伐補助金
- 地域需要としての建材、梱包材、パルプチップ、燃料チップ、おが粉
- 事業目的（生物多様性）への森林事業収益の再投資
- 「経営特性を見せる」研修・エコツアーの事業化
- SATOYAMA概念の具体例として海外からの視察観光
- 日本の北方林を訪ねる国内向けツアー



活用から保全への還元方法

- エコツアー事業化に向けた収益活用・人材育成
- 地域貢献としての地域木材の域内活用（サンタランドウッド）
- 地元子ども向け 森を知るプログラム
- 景観施業による国立公園山岳景観の遠望確保
- “保持林業”による生物多様性向上
- モニタリング1000里地調査の継続



【R8年度取組】

地元人材への展開 実施体制構築

- 地域おこし協力隊等地元人材を事務局員として雇用
- 事務所としての整備
- 行政、個人のネットワーク拡大



国内外プロモーション

- IPSI事務局
- 大手研修企画会社
- 地方のテーマツアー企画運営会社
- R8.3 (R8年度) IPSI-10国際会議 (エクアドル) にて日本の北方林OECMをPR (本事業の対象外で実施)

モニターツアー

- インバウンド向けモニターツアーを企画・試行
- 浦河観光協会等と連携して、台湾、韓国等の旅行社への参加呼びかけ

ツアー商品販売試行

- IPSI事務局関係を経由
- 大手の企業研修ツアー会社を経由
- 地方のテーマツアー実施会社を経由
- 泉企画、山荷葉等との共同作業による試行

想定する成果

- 地域おこし協力隊等若手人材を加えた地元実行事務局体制の確立

想定する成果

- 日本に学びたい海外経営者層やIPSIを通じた生物多様性専門家層への潜在需要の掘り起こし

想定する成果

- 本格的ツアー商品化のための課題解決と地域の機運醸成



想定する成果

- 需要予測と価格適正化、着地後輸送手段、宿泊、食事等の具体的対応の適正化

R8年度のゴール

- 「日本の北方林ツーリズム」事務局の立ち上げ・営業開始
- モニターツアーの実施とそこからの教訓把握→商品化販売試行

想定される課題

- 人材の確実な確保と雇用資金の捻出
- 既存協議組織との有機的な連携
- 的確な収益配分 (連携先へのメリット提供)

